

ふれあい

～令和3年3月1日発刊～



病院理念

『より質の高い 心あたたまる医療の実現』

基本方針

1. 患者様の人権を尊重し、十分な説明と同意のもとに安全で良質な医療をめざします。
2. 地域の基幹病院として医療機関との連携を促進し、地域医療の向上に努め、地域住民の健康維持に貢献します。
3. 救急医療と小児医療及び周産期医療の充実を図り、地域住民が安心できる医療を提供します。
4. 自治体病院として公共性を保ち、効率的な病院経営に努めます。
5. 職員は専門職としての誇りと目標を持ち、常に研鑽して知識と技術の向上に励み、チーム医療を推進します。
6. 働きがいのある職場として環境を整備し、明るい病院づくりをめざします。

院内広報誌『ふれあい』

患者様ならびにご家族の方々に病院をよく知っていただき職員と患者様の交流の場となる誌面をめざしています。

千歳市北光2丁目1番1号
市立千歳市民病院
編集長 大田 光仁
事務局 総務課
0123-24-3000(内線 8232)

足のつけねのふくらみ

外科 脇坂 和貴

足のつけねのふくらみが気になっている方はいませんか。それは「鼠径（そけい）ヘルニア」の症状かもしれません。一度外科での診察をお勧めします。

★鼠径（そけい）ヘルニアとは

一般的にヘルニアと言えば、腰のヘルニア（椎間板ヘルニア）を思い浮かべるかもしれませんが、鼠径ヘルニアは俗に「脱腸」とも呼ばれますが、下腹部の足のつけねあたり（鼠径部）がポッコリとふくらむ病気です。外科の外来ではよくみられる一般的な病気で、日本では年間約 15 万人の方が治療を受けています。先天的な原因で鼠径ヘルニアとなることもあるため、子供にも多い病気ですが、後天的な原因では 60 歳以上で発症することが多い病気です。男性に発症することが多いですが、女性にも発症し 10~20%の患者さんは女性です。



右鼠径(そけい)部の膨らみ(男性)

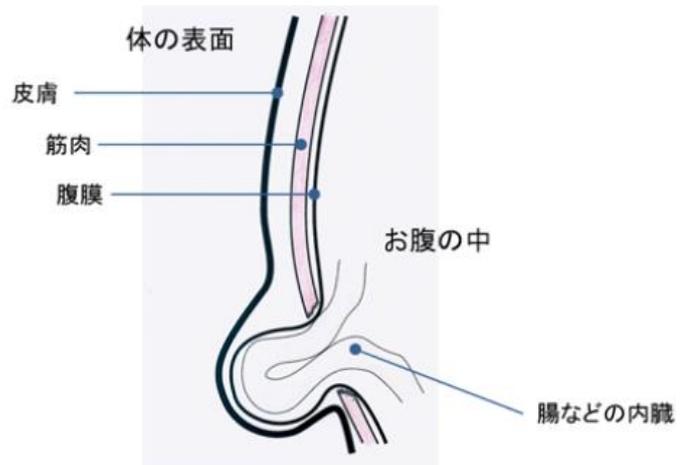


左鼠径(そけい)部の膨らみ(女性)

★鼠径ヘルニアの原因は？

おなかの筋肉の膜にできた穴から、皮膚の下に腸などの内臓が腹膜をかぶったままとび出すことが原因です。

鼠径部は生まれる前に睾丸や子宮の靭帯が通過するために穴が開いています。この穴の部分が生まれる前にきれいに閉じなければヘルニアになります（先天性）。また、筋肉が様々な原因で弱くなったり、おなかの圧力が上がることでヘルニアを起こします（後天性）。その両方が原因となり起こることもあります。



<膨らんでいる状態>

★どんな人がなりやすい？

大人の鼠径ヘルニアになりやすい人の特徴で現在わかっていることは、高齢者、痩せている人、一度反対側の鼠径ヘルニアになったことがある人、おなかに力がかかる仕事や運動をやっている人、前立腺摘出術を受けたことがある人、慢性的な咳がある人、腹膜透析をしている人、たばこを吸う人です。

★鼠径ヘルニアの症状

鼠径ヘルニアの症状は、鼠径部にできたふくらみが大きくなったり小さくなったりすることが典型的な症状です。治療をしなければ徐々に大きくなり、男性の場合は陰嚢まで膨らむこともあります。それに伴って、鼠径部の違和感や痛みが生じることがあります。

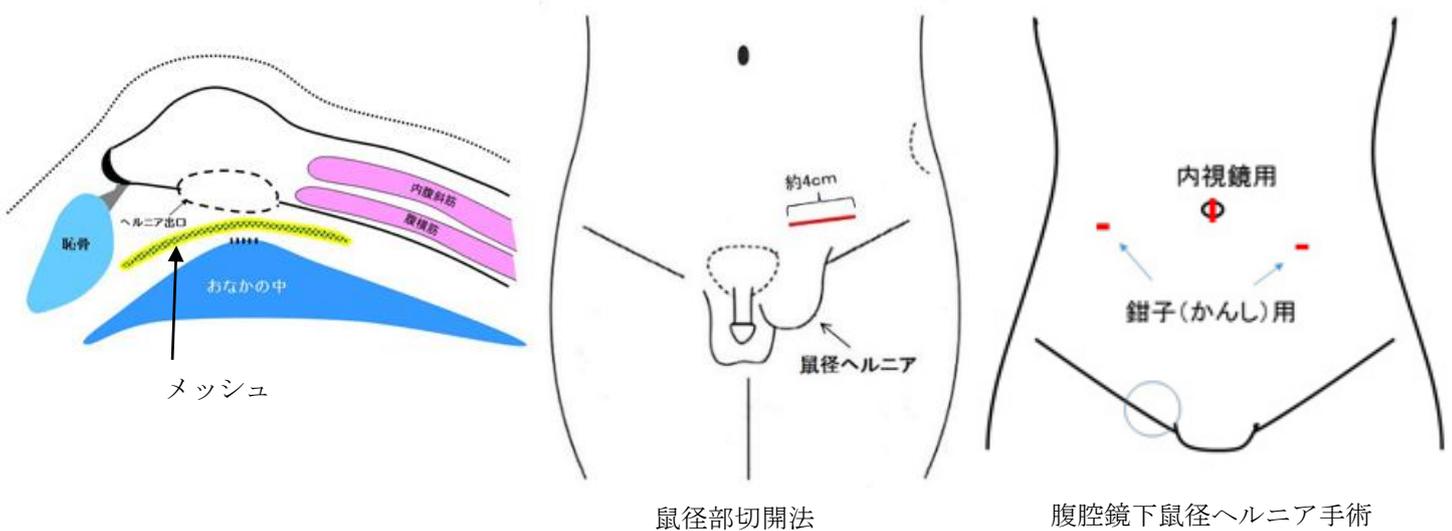
★鼠径ヘルニアの嵌頓（かんとん）

鼠径ヘルニアの嵌頓といいます。とび出した内臓が元に戻らなくなり、血の流れが悪くなると内臓がくさってしまう場合があります。このような状態になってしまうと緊急手術が必要となる場合もあり危険です。この場合は強い痛みや嘔吐なども伴うことが多いです。

★鼠径ヘルニアの治療

現在のところ鼠径ヘルニアの明確な予防法はありません。また、自然に治るということもなく、現在の医学ではまだ手術以外に治療法はありません。鼠径ヘルニアと診断された場合に、必ずしもすぐに手術をする必要があるわけではありませんが、症状があって日常生活にも支障をきたしている場合や嵌頓のおそれがある場合は早めに手術を受けられることをお勧めしています。

手術ではヘルニアが出てきていた穴を塞ぎます。手術法はいくつかありますが、基本的には人工物の網（メッシュ）を用いて修復する方法が一般的です。当院では鼠径部を切開する方法（鼠径部切開法）と腹腔鏡を使ったおなかの中から修復する方法（腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術）を行っております。当院では日帰り手術は行っておりません。手術前日入院して頂き、術後2日目前後に退院となります。



★さいごに

手術を希望される場合、手術日までの待機期間は初診時より約10日～1か月程です。ご都合に合わせて手術日のご相談も可能です。足のつけねのふくらみが気になる方は一度外科での診察をお勧めします。

（図はすべて日本ヘルニア学会ホームページより引用、一部改変）

<編集後記>

・新型コロナウイルス感染症の心配が尽きない毎日ですが、これまで通りの医療体制を維持するためには、これまで以上に一人ひとりが病気にならないように努力することが大事だと思います。感染症対策はもちろん大事ですが、生活習慣病の予防や事故によるけがの防止などにも一人ひとり意識することが、医療を支えることにつながると思います。

外科 脇坂／地域医療連携課 小林

患者様の権利と責任

当院では、患者様の人権を尊重し、患者様と医療従事者が信頼と協力のもと、より質の高い心あたたまる医療を実現するため、『患者様の権利と責任』を定めています。

1 医療を受ける権利

どなたでも公平に、安全で適切な医療を継続して受けることができます。

2 知る権利

ご自分の病状や検査、治療について、理解し納得できるまで十分な説明を受けることができます。また、ご自分の診療録(カルテ)の開示を求めることができます。

3 自分で決定する権利

十分な情報提供を受けたうえで、ご自分の意思により検査や治療に対する同意や選択、拒否を決定することができます。

また、他院の医師の意見(セカンド・オピニオン)を求めることができます。

4 プライバシーの権利

診療の過程で得られた個人情報や病院内での私的なプライバシーが保護されます。

5 参加と協力の責任

これらの権利を守るため、患者様には医療従事者とともに医療に参加し、協力することが求められます。

- ① 現在の病状や過去の治療歴について、できるだけ正確に教えてください。
- ② 検査や治療は、必要性和安全性を十分理解したうえで受けてください。
- ③ 他の患者様の権利を尊重し、職員の業務に支障をきたさないよう、病院内のルール・マナーを守ってください。
- ④ 医療費の請求を受けた時は、速やかにお支払いください。
- ⑤ 臨床研究や医療従事者の教育にご理解のうえ、ご協力をお願いします。

『患者様の権利と責任』について、何かご意見がありましたら承りますので、ご遠慮なく医師、看護師、その他の職員もしくは【患者様相談窓口：1階医事カウンター①番窓口】までお知らせください。

患者様からいただきましたご意見を尊重し、日常の診療の改善に役立てたいと考えておりますので、どうぞよろしく申し上げます。